

資料8 専門用語の説明

●地質

・付加体

海洋プレートが海溝やトラフなどの沈み込み帯で沈み込むとき、海洋底の堆積物がはぎ取られて陸側に押しつけられてできる構造体です。ジュラ紀の美濃丹波帯、白亜紀から古第三紀の四万十帯などがあります。田代地区は四万十帯に属し、この層群は房総半島から関東山地、赤石山脈、紀伊山地、四国山地南部、九州山地南部を経て沖縄本島までにわたる延長約1,800kmの帯状に分布します。

●生態系

生態系とは本文注に示したように、ある地域の物理的な環境とそこに生育・生息する生物群集の相互作用から構成される複雑なシステムです。

地域生態系とは、以下のように考えています。

その地域の気象条件（気温、降水量など）のもとで、地質・地形条件と相まって、土壌条件が決まります。それによって植物の種類と生育分布状況や人による土地利用状況がおおむね規定されます。これらの条件の下で、動物の種類と生息分布状況が規定されます。そしてこれらの各要素が複雑に関係し、作用しあって、現在の地域生態系が形成されているということが出来ます。以上のような関係性を表したものが本文中のp61～63に示した図（図4.3.2～4）です。その地域に生息・生育している動植物相は、どのような環境条件の下で成立し、それらの動植物の生育・生息には、どういった環境要素が関係しあっているかを表そうとしたものです。

●自然環境保護対策

・河川の近自然工法

スイスのクリスチャン・ゲルディが唱えたもので、ドイツ語の*Naturnaher Wasserbau*を「近自然河川工法」と訳したものです。一方、「多自然型川づくり」の用語は、河川の管理である建設省が、「近自然河川工法」の基本的考え方を踏まえ、市民にも理解しやすい用語として使用したものです。基本的には河川を改変する場合、その地域の河川の生態系特性をよく踏まえ、それをベースにその地域に合った本来の生態系に近づけることを目指す工法です。それぞれの地域気候と地理的条件の中で、大気、水、土壌の働きと生態系の食物連鎖の関係を本来の自然に近づけるという概念を持っています。

（クリスチャン・ゲルディ・福留脩文、1990、近自然河川工法—生命系の土木建設技術を求めて—、近自然河川工法研究会、河川環境と水辺植物-植生の保全と管理-、奥田重俊・佐々木寧、1996などを参照）